



MIZUBE  
「B&G 水辺の安全教室」プログラム



ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

MIZUBE

# 「B&G 水辺の安全教室」とは

『「危険だから」と水辺から遠ざけるのではなく、子供たち自身が「自分の命は自分で守る」意識と技能を身につけてもらいたい』

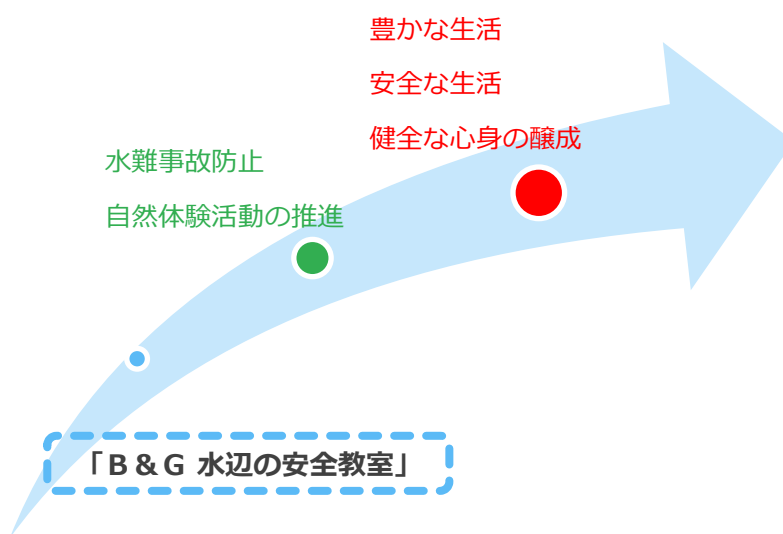
『教育的効果の高い自然体験活動に興味を持ち、安全に楽しく水辺で遊び、活動してもらいたい』

そんな思いのもと、B & G財団では、都内小学校をはじめ全国のB & G海洋センター・海洋クラブと協力し、「B & G水辺の安全教室」を平成22年度より展開。これまでに全国で20万人以上が体験しています。このたび、プログラム改良を行い、監修に筑波大学体育系教授 椿本昇三氏、東京海洋大学大学院准教授 田村祐司氏を迎え、より分かり易く、理論と技能の内容を充実させたプログラムとなりました。

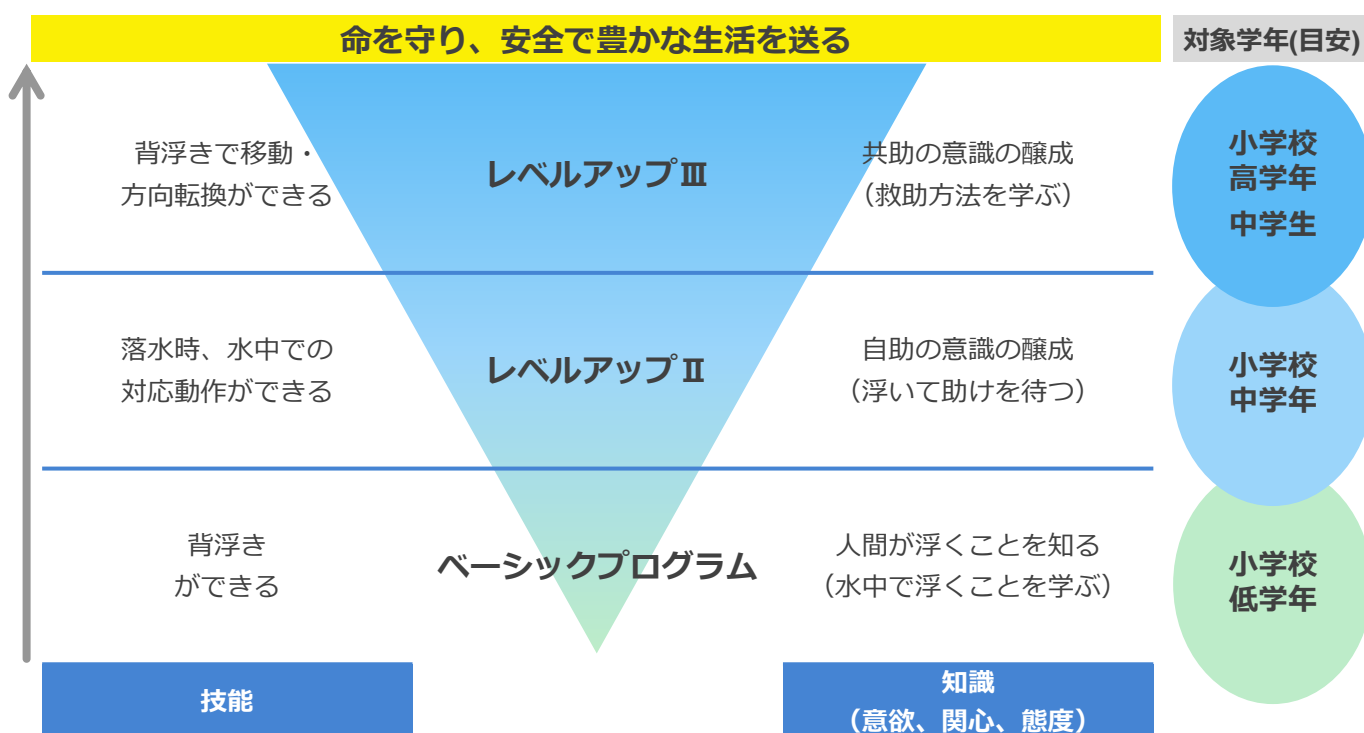
## 「B&G 水辺の安全教室」

背浮きやライフジャケット浮遊体験、身の回りにある浮く物を利用した落水時の対処法などの実体験を通して、水辺で安全に活動できる知識や技能、知恵を身に付けることができる教室です。

「B&G 水辺の安全教室」を通して、プールに入れない子供も水辺で安全に活動することを知識として学び、健全で豊かな生活を送ることができる子供を育てます。



## 学習指導要領解説に則した「B&G 水辺の安全教室」領域とねらい



# MIZUBE 「B&G 水辺の安全教室」の意義

筑波大学体育系教授 椿本昇三（監修）

水泳教育の最も重要な意義は、尊い人命を守るための知識と技能を身に付けることです。

警察庁の統計によると、1990年代初頭の年間水死者数は1,500人前後で推移しながら減少することがありませんでした。そのため水泳教育に変革が求められ、「着衣泳」が命を守る安全教育のプログラムとして認知されるようになっていきました。

こうしたなかで、B&G財団や学校、スイミングクラブなどが、水難事故に対する意識の向上や事故回避方法の習得を目的とした授業・研修会・講習会などを地道な努力で続けた結果、約20年が経過した現在では、水難事故による水死者が大きく減少しています（2013年死者・行方不明者数：803名「平成25年 水難の概況」（警察庁統計資料）より）。

しかしながら、水辺における危険を回避するための教育を確立し、さらなる成果をあげるには、まだまだ長い道のりが残されています。2002年度に施行された小・中・高等学校の「学習指導要領」では、自然と関わりの深い活動の1つとして「水辺活動」が明記されましたが、実際に水辺活動を行う場合には、「安全上の問題」「時間的な制約」「指導者の不足」「施設や実施場所の問題」等、多くの阻害要因が存在しています。また、さらに言えば指導者が必要とする水辺活動の適切な指導書が、極めて少ないことも現状です。

そこでB&G財団は、これまで展開してきた「B&G水辺の安全教室」プログラムの改訂に取り組み、基礎から上級へと段階的に理解できるようにステップアップ方式を取り入れながら、動画等を多用したウェブ教材としてまとめ上げました。水辺の安全に関する知識や技能について十分解説されているので、現場で指導にあたる方々にとっては大変心強いテキストになるでしょう。

指導者・教職員の皆様には、本プログラムを通じて子供たちが安全に楽しく水と親しめるように、わかりやすく楽しい教室を実施していただくことを期待しています。そして、ひとりでも多くの子供たちが尊い命を守るための「知識」と「知恵」と「技能」を身に付けてくれることを願ってやみません。

# プログラム構成

## プログラム構成

本プログラムは以下の図のように構成されています。

プール、プールサイドまたは教室、自然環境などに応じて、プログラムを実施してください。



## Part1 プールで行う安全教室

- ベーシックプログラム  
教室実施の導入からまとめまで、実施時間30分で構成されている基本となる内容。
- レベルアップメニュー（レベルアップⅡ・Ⅲ）  
習熟度や対象児童に応じて盛り込むレベルアップした内容。

メニュー レベル	導入	入水	背浮き	浮く物を使用した背浮き	ライフジャケット浮遊体験	まとめ
ベーシックプログラム	●	●	●	●	●	●
レベルアップⅡ			●	●	●	
レベルアップⅢ			●	●		

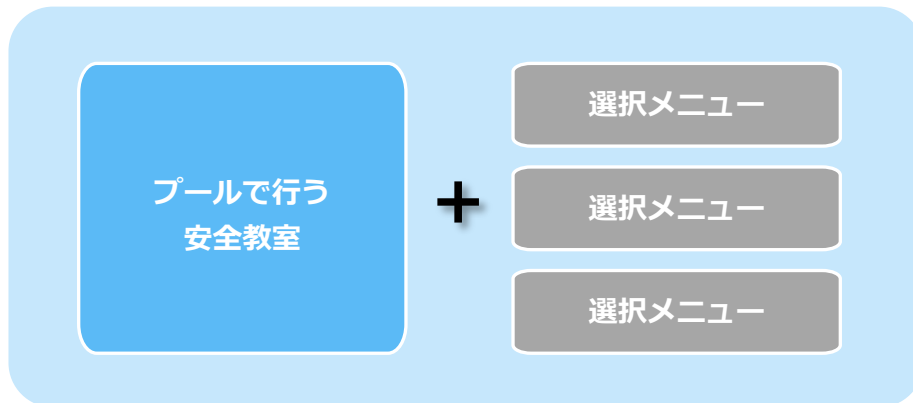
実施する状況に合わせて、プログラムを自由に組み合わせることが可能です。

- 学校授業や水泳教室でベーシックプログラムを実施
  - ベーシックプログラムができるようになったら、レベルアップメニューを取り入れて実施  
ベーシックプログラム+背浮き（レベルアップⅡ）
  - 各メニューを抜き出して、学校授業や水泳教室のメニューの一つとして実施
- ※すべてのメニューは、着衣で実施することで、より実践的な体験となります。

## Part2 選択メニュー

「水辺の安全紙芝居」やレクリエーションなど、プールで行う安全教室にバリエーションを持たせるメニューです。実施時間や習熟度、学年に合わせて取り入れてみてください。

※「水辺の安全紙芝居」は、ホームページからダウンロードして活用してください。



## Part3 水辺の知識

水辺の危険箇所や、天候・災害に関する基礎資料です。

小学校で水辺の安全教室を実施する際や、海洋センター近隣の水辺等を説明する際に取り入れてください。

## Part4 海や川での安全教室

自然環境下で実施したプログラムの紹介です。

全国の海洋センターの実施事例を紹介していますので、地域の環境に合わせ活用してください。

# 目次

「B&G 水辺の安全教室」とは	1
「B&G 水辺の安全教室」の意義	2
プログラム構成	3
目次	5

## Part1 プールで行う安全教室

<b>1-1 ベーシックプログラム</b>	<b>7</b>
1. 導入	7
2. 入水・上がり方	10
3. 背浮き	12
4. 浮く物を使用した背浮き	14
5. ライフジャケット浮遊体験	15
6. まとめ	17
<b>1-2 背浮き</b>	<b>18</b>
1. レベルアップⅡ（背浮き）	18
2. レベルアップⅢ（背浮き）	19
<b>1-3 浮く物を使用した背浮き</b>	<b>20</b>
1. レベルアップⅡ （浮く物を使用した背浮き）	20
2. レベルアップⅢ （背浮く物を使用した浮き）	21
<b>1-4 ライフジャケット浮遊体験</b>	<b>22</b>
1. レベルアップⅡ （ライフジャケット浮遊体験）	22
COLUMN 浮く原理	24
COLUMN 背浮きの原理	25

## Part2 選択メニュー

<b>2-1 コンパクトジャンプ</b>	<b>26</b>
1. コンパクトジャンプ	26
<b>2-2 流れるプール</b>	<b>27</b>
1. 流れるプール	27
<b>2-3 レクリエーション</b>	<b>28</b>
1. ライフジャケット背泳ぎレース	28
2. ペットボトル的当て	28
3. 着衣ラッコ泳ぎリレー	29

参考：「プールで行う安全教室」のメニューに対応する記載箇所

	導入	入水	背浮き	浮く物を使用した背浮き	ライフジャケット浮遊体験	まとめ
ベーシックプログラム	Part1 1-1 1.	Part1 1-1 2.	Part1 1-1 3.	Part1 1-1 4.	Part1 1-1 5.	Part1 1-1 6.
レベルアップⅡ			Part1 1-2 1.	Part1 1-3 1.	Part1 1-4 1.	
レベルアップⅢ			Part1 1-2 2.	Part1 1-3 2.		

## Part3 水辺の知識

<b>3-1 水の循環</b>	<b>30</b>
1. 水の循環	30
2. 自然環境の留意点	30
<b>3-2 天気の詳細点</b>	<b>31</b>
1. 天気の急変に備える3つのポイント	31
2. 集中豪雨の発生時の影響	31
3. 発生を想定して行動を	31
4. 最新の天気予報の特徴	32
<b>3-3 水辺の危険－河川</b>	<b>33</b>
1. 水温等による危険	33
2. 水流による危険	33
3. 流域別危険	34
4. 人工工作物による危険	35
5. その他危険回避のために	36
<b>3-4 水辺の危険－海</b>	<b>37</b>
1. 波	37
2. 風	37
3. 流れ	38
4. 危険な海の生物	38
<b>3-5 水辺の危険－湖沼・ため池</b>	<b>40</b>
1. 湖沼の成り立ちによる護岸の状態	40
2. 湖沼の成り立ちによるエントリーポイントの制限	40
3. 水底の沈殿物	40
4. 水質	40
5. 低水温	40
6. 強風の発生	41
7. 水生植物の繁茂	41
8. 目視の困難	41
9. 水の流入・流出部に生じる危険	41

## Part4 海や川での安全教室

<b>4-1 海編</b>	<b>42</b>
1. ライフジャケットを着用した離岸流体験	42
<b>4-2 河川編</b>	<b>44</b>
1. ライフジャケットを着用した川流れ体験	44
COLUMN スローバッグを使った救助法	46
「B&G 水辺の安全教室」プログラムへの期待	47

**ここから先をご覧になりたい方は、  
ユーザー登録が必要です。**